

## 2026年4月12日（日）第1礼拝「サウルの家とダビデの家」Ⅱサムエル3章1節

当初、サウルは謙遜な人でしたが、サムエルから油注がれて王になり、高慢になって神様から離れました。一方、サウルの元にいたダビデはますます主に近づき、強くなっていきました。私たちもダビデのようにますます祝福され、強くなるように祈ります。

第一番目、ダビデは神様を愛しました。ダビデの心はいつも神様の愛を求め、その愛で満たされていました。そのダビデの願いは一つでした。「私は一つのことを主に願った。私はそれを求めている。私のいのちの日の限り、主の家に住むことを。主の麗しさを仰ぎ見、その宮で、思いにふける、そのために。」（詩篇27：4）ダビデは主を愛し、主だけに集中しました。ペリシテ人のゴリアテは約3メートルの身長で、敵の将軍でした。ゴリアテが大きな声でイスラエルの神を侮辱するのを聞いて、ダビデはゴリアテに立ち向かい、主の御名によって石一つでゴリアテを倒しました。このようにダビデは戦いに勝利をし続けました。しかし、イスラエルの女性たちが「サウルは千を打ち、ダビデは万を打った。」と歌うのを聞いて、サウルは嫉妬し、生涯、ダビデを殺そうとしました。ダビデは主の愛で満たされていましたが、サウルは肉の欲、この世の欲、目の欲、暮らし向きの自慢で満たされていました。イエス様の愛が心がないなら、妬みで満たされてしまうのです。このようにして、ダビデはますます強くなり、サウルはますます弱くなっていきました。

第二番目、ダビデは悔い改める謙遜な人でした。ダビデはウリヤの妻と姦淫し、ウリヤを殺して罪を犯しました。その時、預言者ナタンに叱られ、ダビデはすぐに悔い改めました。人間的な目から見て、ダビデと比べるとサウルの罪は大したものではありません。サウルは、約束の時間にサムエルが現れなかったので、自ら生贄を捧げ、また、「アマレクを聖絶しなさい」とサムエルを通して言われた時も、その王アガクや上等な動物を生かしました。その事をサムエルが問いただすと、サウルは弁明して、自分の正しさを主張したのです。このように、ダビデとサウルには、大きな違いがありました。ダビデは「私は咎ある者として生まれ、罪を犯しました。私が今の私になったのは、主の恵みです。あなたの聖霊を私から取り去らないでください。」と告白し、悔い改めました。ダビデが強くなったのは、聖霊が離れなかったからです。神様は悔い改める人に赦しを与え、聖霊を注いでくださるのです。

第三番目、ダビデは約束を信じる人でした。永遠に変わる事のない神様の約束を信じるなら、私たちは救われます。「人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。」（ローマ10：10）ダビデは永遠の王イエス・キリストが来られることを信じました。その通り、それから千年後、イエス様は来られました。ダビデは信じた通りに永遠を受けたのです。しかし、サウルは神様の約束を信じず、神様の御言葉より自分が上だったので、サウルが困った時、彼を支える言葉がありませんでした。そのため、ペリシテ人と戦う前に占い師の所に行き、占いをしました。占いをすると滅んでしまいます。しかし、イエス様の真実な約束を信じるなら、その約束の通り、私たちはますます祝福され、強くなるのです。